



第三回も前回に引き続き【感覚】のお話です **感覚統合理論における3原則**

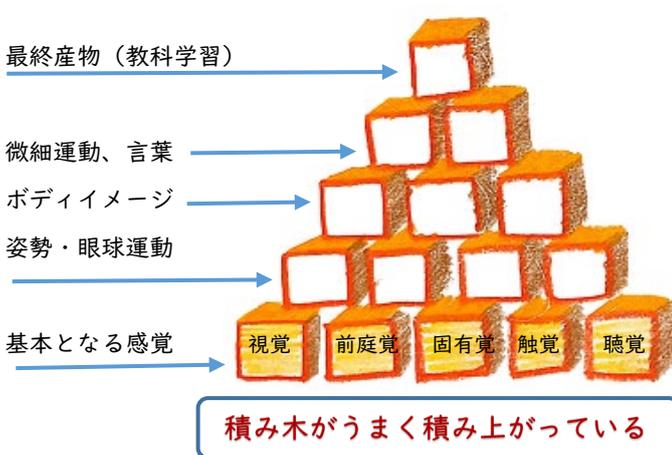


原則1  
感覚は脳の栄養素

原則2  
感覚入力には交通整理が重要

原則3  
感覚統合は積み木を積み上げるように発達する

「感覚統合は積み木を積み上げるように発達する。」



読み書きなどの教科学習の遅れ、手先の不器用さなどの目に見えやすい問題は、ピラミッドの上の方の問題です。

しかし、これらの問題に対する支援では、土台になっている感覚・運動面へのアプローチこそが重要になってきます。感覚統合理論をつくったエアーズは、「読み書きが苦手な子に、読み書きの練習を繰り返し行う」という指導の方法に疑問をもちました。読み書きの基盤には何があるのか、すなわち読み書きはどのような力を合わせて（積み上げて）、発達するのかを私たちを理解して学習指導していきたいものですね。

特別支援教育の指導では、【繰り返しの指導】はこれまでとても大切にされ、多くの実践からも繰り返しの重要性は示されています。しかしながら、目の前にいる子どもたちが【繰り返しの指導】に適した実態なのかということをも改めて確認していきたいところです。もう一度、【感覚】に積み残しが残らないか確かめてみませんか。

ちょっと補足～発達って??～

私たちの仕事ではよく「発達」という言葉を耳にします。では発達とはなんなのでしょう？「発達する」は英語で表すと「develop」になります。「de」は「～ない」、「velop」は「包み込む」という語源をそれぞれにもっており、合わせると「包みをひらく」という意味になります。つまり、「発達する」ということは「包み込まれた可能性を拓かせてゆく過程」ということです。

私たち教員が包みを開くお手伝いができるように様々な準備をしていきたいですね。

